友愛の森(二中だより)

学校教育目標　　二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和７年４月 11 日発行

令和7年度　入学式式辞より

教頭　伊山　伸

令和7年度がスタートしました。昨年度も、皆様方には、本校教育活動に御理解御協力を賜り、本当にありがとうございました。今年度もどうぞよろしくお願いします。

さて、4月8日に行われました入学式において、今年度、柚野中学校より着任いたしました本校校長山元勝久より、「お祝いの言葉」を新入生にお送りさせていただきました。その中から、新入生に向けて話した内容を抜粋して紹介します。「これからの中学校生活三年間で覚えておいてほしい、大切な二つのこと」についてのお話です。

【中学校生活3年間で覚えておいてほしい、大切な二つのこと】

① 「人は変わることができる」ということです。

中学生になった皆さんの心と体は、これから日々成長し、小学生の頃とは変わっていきます。皆さんの中には、小学校時代、勉強が苦手、運動が苦手と、半ばあきらめかけていた人がいるかもしれません。友だちと仲違いをしてしまい、関係をうまく修復できないまま今日を迎え後悔している人がいるかもしれません。また、ちょっとした失敗をしてしまい、積極的に行動することに臆病になっている人がいるかもしれません。でも大丈夫です。「人は変わることができる」のです。

※令和7年度は「小学7年生」ではなく「中学1年生」になります。昨年度の延長上ではなく、ここから新しい自分になるための生活が始まります。「リセット」です。これまでの自分は「あれができない」「これができない」、いろいろあったと思います。でも、そんな自分をリセットして、何にでもチャレンジすることで、自分でも想像できない新しい自分が発見できるのです。何事にも前向きに、失敗を恐れずにいきましょう。そして、お互いの失敗も認め、受け入れともに成長できる仲間、集団になったら素敵ですね。

② 本校の学校教育目標である「二中文化を創造する生徒」について、自分なりに考え、身に付け、実践していってほしいということです。

「文化」という言葉を辞書で調べると、「人間が社会の構成員として獲得する多数の振る舞いの全体」とあります。二中の生徒となる皆さんに求められる「振る舞い」とは、例えば、目上の人に対する正しい礼儀作法、さわやかで清潔感のある身だしなみ、相手を意識した挨拶や言葉使い、仲間と協力しようとする気持ち、等があげられます。また、日頃から書物に親しむことで豊かな教養や感性を身につけた姿も「文化」が身に付いている姿と言えます。先輩方が築き上げた二中文化を大切にしながらも、さらにより良いものを生み出し、「今が二中の歴史の中で、一番素晴らしい姿です」と胸を張れる生活を二中生全員で築いていけることを願っています。

※「文化」というと、例えば「希翔祭　文化の部」、それに向けての準備なども大切なのですが、校長先生の言葉からは、「文化＝日頃の生活の質を高めていくこと」ということが分かります。あいさつ、言葉遣い、仲間への協力など、日々の場面の一つ一つが「文化」なのです。新入生の皆さんを含め、富士宮二中生全員が「良い文化を創る人材（人財）」となっていきましょう。

今年度も、職員一丸となり、すべての生徒が可能性を見いだすことができるよう、教育活動の推進に尽力してまいります。保護者の皆様、地域の方々のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和７年度が始まりました

４月８日に87名の第１学期始業式、令和７年度入学式が行われました。
以下は代表生徒の決意です。（抜粋）

入学式　新入生代表　佐野陽奏　さん

寒さも和らぎ、花たちが風に揺られて、温かい春の香りが漂い始め、新しい出会いの季節となりました。

これから僕たちは、中学校で勉強、学校での生活の仕方など、たくさんのことを学んでいきます。そして、将来のために学びながら様々なことに挑戦していきます。

ですが、時には失敗してしまうこともあるかもしれません。そのような時には先生方、先輩の皆さん、僕たちに教えてください。

僕たちは、今日この日を迎えられた喜びを忘れずに、これからの３年間で立派に成長し、将来のために、先輩の皆さんと一緒に頑張っていくことを誓います。

始業式　2年生代表　中司凜太郎　さん

今年度、僕が意識していきたいことは「積極的に行動に移す」ことと「時間を見る」ということです。昨年の学級目標「根を張る」は2･3年生にかけて成長するための土台だったので、２年生では基本のことを意識するということはもちろん、自分から行動し、基本に加えて新たに設定した学級目標などを意識して生活することを実行していきたいです。

勉強面では授業で積極的に意見を出し、ノートの工夫などをしてテストや次の授業に活かすことができるように意識していきたいです。

部活動は、僕はバドミントン部に所属していて、バドミントンは準備に時間がかかってしまうため、少しでも早く行い部活ができる時間を最大限使えるように行動していきたいです。

始業式　3年生代表　堀内遥太　さん

私は、３年生になることに、不安な気持ちが大きいです。

まず１つ目は、受験まで１年を切ったことです。自分はテスト期間でも、気づいたらスマホに熱中していることがあり、受験の時期になってもそうならないか不安です。２つ目は、テニスクラブでの最後の大会が迫っていることです。最後の大会は勝って気持ちよく終えることができるよう日々練習に励んでいます。

私は、その解決方法は「人一倍努力すること」だと考えています。今年の目標を「人一倍努力すること」として頑張りたいです。また、修学旅行や希翔祭では、中学校生活最後の行事として「人一倍楽しむこと」も忘れない１年にしたいです。

始業式　5･6組代表　赤池龍征　さん

僕が３年生になって頑張りたいことは２つあります。１つ目は体力づくりです。毎日、元気よく過ごし、授業に集中して取り組むためには体力が大切です。まずは、毎朝の運動や体育の授業で行う５分間走を自分のペースで走りきることができるように頑張り、体力を付けたいと思います。

２つ目は、規則正しい生活を送ることです。僕は、昨年、２学期の授業をきっかけに、自分の生活習慣を見直す機会がありました。そして、睡眠時間を見直すことで、毎日、元気よく登校することができるようになりました。この２つは、受験生になった僕にとってとても大切になるので、意識して取り組んでいきます。

生徒会長　鈴木　葉太さんの歓迎の言葉　（抜粋）

中学校では、修学旅行や自然教室など、行事を特に楽しみにされる方が多いと思います。二中最大の行事ともされる、「希翔祭」の存在も欠かせません。希翔祭では、一人一人が仕事を持って主役となれる大きな舞台です。「仕事」という言葉に大変そうだなと思う人もいると思います。当然、何もしなければ、楽かもしれません。ただ、どうか楽しいことの裏には、陰で支えてくれている人の存在があることを知っておいてほしいと思います。皆さんの幸せには、支えてくれている多くの人が関わっています。そんな「活躍する人」、「幸せを支える人」に皆さんもなってほしいと思います。学年の壁を越えてつかんだ成功、そして、集団としての大きな成長、これらの感動は、きっと思い出の１ページに深く刻まれる、かけがえのない思い出になると思います。

最後に、伝えたい言葉、それは、「自立とは依存先を増やすということ」です。普通に考えれば「何もかも自分で決断することこそ自立」と思うかもしれませんが、それは少し違います。困ったとき、悩んだとき、相談をする先を増やし、自分で悩みを抱え込まないこと。人と協力をして問題を解決できる力も「自立をすること」なのです。もし、学校生活に行き詰ってしまっても、みなさんの周りには、家族や仲間、先生方と多くの応援者が存在しています。「自立とは依存先を増やすということ」という言葉を思い出して新生活をスタートしてください。